

〔花壇苗の効率的生産技術の確立〕
公共用花壇における花壇苗の利用調査

椿 眞由己・谷藤家信*
(園芸部・*経営部)

【要 約】公共用花壇苗を生産者より購入したいと回答した区市町村は約5割あり、地域内供給拡大が期待できる。生産者より公共用花壇苗を購入する際に考慮されるのは「品質」などである。公共用花壇に新品目の利用拡大をはかるためには、秋冬～早春用の品目数が少ないため、この時期の新品目導入により需要拡大が期待できる。新品目に求められる特性は維持管理が容易であることなどがあげられる。

【目 的】

東京における公共用花壇苗の利用状況を調査し、大口の利用先に地域から花壇苗を供給するための基礎資料とする。

【方 法】

管内区市町村(合計61)の公共用地における花壇苗の利用状況と問題点などについて、各区市町村にアンケート調査を実施した。調査は平成15年度に行い、管内全区市町村から回答を得た。内容は表1～2、図1～6のとおりである。

【成果の概要】

- 1) 花壇苗の公共用地における利用場面では公園・緑地が最も多く、次いで道路が多かった(図1)。モデル的緑地で利用されている花壇苗を春～夏初秋用と秋冬～早春用と比較すると、品目数は春夏用で多く、秋冬用では春夏用の約1/3であった(表1)。このため、秋冬用の新品目導入により需要拡大が期待できた。表2に秋冬～早春として現在利用されていた品目を示した。モデル的緑地の改植回数は年3回程度で(表3)、植え付け後の問題点には枯死、病害虫による被害があげられた(図2)。
- 2) 都内生産者からの購入状況を調査したところ、都内区市町村の約3割が都産花壇苗を利用しているが、約3割では利用していなかった(図3)。生産者より花壇苗を購入したいと思うかという設問には、約5割が「そう思う」および「やや思う」であり(図4)、今後生産者サイドからの働きかけにより、公共用花壇の地域内供給拡大が期待できた。今後生産者から購入する場合、考慮する割合が最も高かったのは「品質」であり、次いで「価格」、「品目の適正さ」であった(図5)。
- 3) 新品目に求められる特性は病害虫に強い、維持管理が容易、観賞期間が長い、価格が安いことなどがあげられる(図6)。その他の特性として、季節感や豊かな色彩も求められている。
- 4) まとめ：公共用花壇苗の需要拡大には購入を希望している区市町村への働きかけ、秋冬～早春用の新品目導入により期待できた。秋冬～早春用品目としてはプリムラ、ストックなどの利用が考えられた。公共用花壇苗を供給する生産者に期待されるのは「品質」、「価格」、「品目の適正さ」であり、新品目に求められる特性は維持管理が容易であることなどであった。

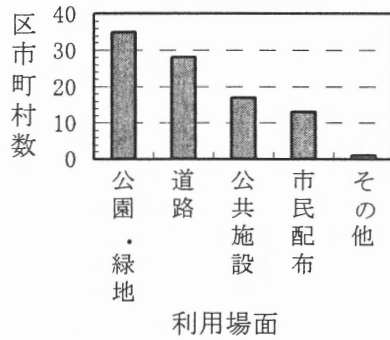


図1 花壇苗利用場面

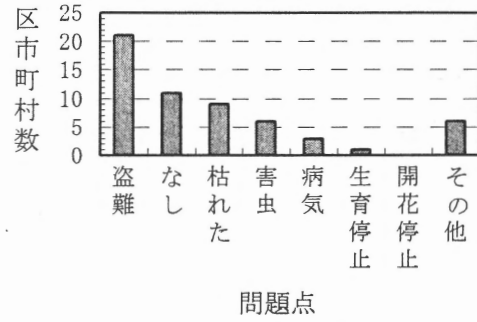


図2 植付け後の問題点

表1 モデル的場所における利用品目

| 利用季節 | 主な品目数 | 数量(鉢) |
|-------|-------|--------|
| 春～夏初秋 | 15 | 44,607 |
| 秋冬～早春 | 4 | 44,333 |

注)30カ所, 全79品目。

表2 秋冬～早春にかけて使用された品目

| | |
|----------|--|
| 従来からある品目 | パンジー, クリサンセマムノースポール, ビオラ, ハボタン, カランコエ, チューリップ, スイートアリッサム, ムスカリ |
| 新規性のある品目 | プリムラ(ポリアンサ, ジュリアン, メラコイデス), ストック, シロタエギク, リナリア, キンセンカ, キンギョソウ, フユシラズ, ナノハナ, レモンバーム, ガーデンシクラメン, アップルミント, ペパーミント |

表3 モデル的場所における利用状況

| 地域 | 植付けカ所数 ^{a)} | 改植回数/年 |
|----|----------------------|--------|
| 区部 | 15 | 3 |
| 多摩 | 15 | 3 |
| 島嶼 | 0 | 0 |

a)道路等含む。



図3 生産者より購入しているか

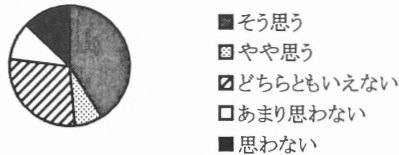


図4 今後生産者より購入したいか

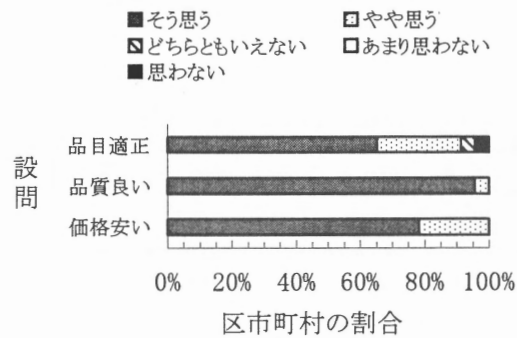


図5 生産者から購入する場合に考慮すること

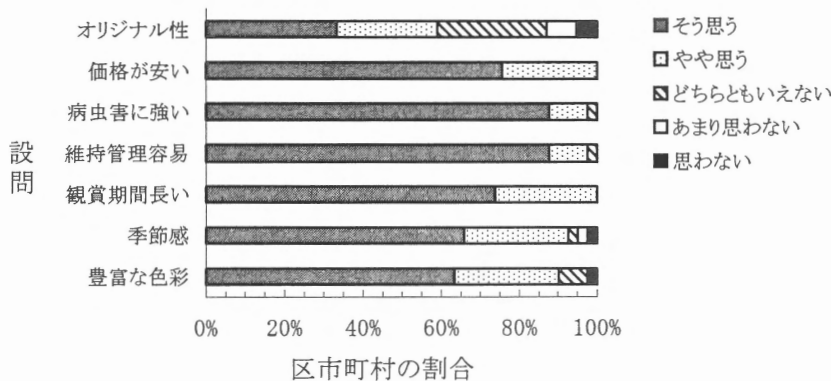


図6 新品目に望む特性